

平成 30 年度 第 2 回 桐生市子ども・子育て会議の開催結果について（報告）

【日 時】 平成 30 年 11 月 20 日（火）午後 2 時 00 分から午後 3 時 00 分まで

【場 所】 桐生市役所 6 階 605 会議室

【出席者】 別紙「桐生市子ども・子育て会議 委員出席状況」のとおり

【議 事】

(1) 桐生市子ども・子育て支援事業計画の変更について

別添「桐生市子ども・子育て支援事業計画 計画変更案について」に基づき説明を行う。

《質疑応答》

委 員：来年の 10 月から幼児期の教育が無償化されるという話があるが、今回の計画値の変更に影響は出ているのか。

事務局：現在、無償化について詳細は出ていない。無償化となれば、1 号認定での利用は増えると考えられるが、どのくらい増えるのかは見通しがつかないため、今回の計画値の変更に無償化の影響は加味していない。

議長が本議案について採決したところ、全会一致により本事業計画変更案は承認された。

(2) 桐生市子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査について

別添「桐生市子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査実施案」に基づき説明を行う。

《質疑応答》

委 員：調査票は子育てに関するニーズを把握するため、かなりのボリュームがある。そのため回答率が低くなってしまいうことも考えられるが、どのくらいの回答数だと集計・分析に問題が生じてしまうのか。また、回答数が非常に少なくなってしまった場合、再度アンケート調査をする等は考えているのか。

事務局：5 年前にも同様の調査を行っており、2,000 世帯に調査をお願いし、50 パーセント弱、約 1,000 件の回答をいただいた。2 年に 1 回、市で行っている「市民の声アンケート」でも毎回、約 50 パーセントの回答率となっている。

る。統計学上、1,000件の回答があれば十分な回答数である。700件を下回るようなことがあれば誤差も大きくなって来るが、1,000件近くの回答をいただけると想定している。

委員：回答率を上げるための対応策は考えているのか。

事務局：回答方法として、郵送による回答に加えて、対象世帯のほとんどは保育園、幼稚園、認定こども園を利用されていることを踏まえて、園での調査票の受け取りも行う。また、調査の実施について広報にも掲載し、各園から調査の実施をお知らせする等、できるだけ周知を図りたい。

委員：例えば、子育て支援センターに来た保護者の方に、その場で回答をいただくという方法はどうか。対象者を無作為で抽出しているため難しいか。

事務局：たしかに回答数は増えると思うが、回答がセンターを利用できる人に偏ってしまう恐れがある。調査の趣旨上、満遍なく回答をいただく必要があるため、ご意見いただいた内容について対応は難しい。

委員：丁度良い分布で回答が得られているかを、調査票に設問を追加することにより分析することは可能か。例えば回答を書く時間がある人からは多く回答が得られているが、時間がない人からはあまり回答が得られていない、ということ进行分析することは可能か。

事務局：ご意見いただいた内容について対応は難しい。

(3) その他

- ・事務局より、本会議出席に係る報酬の支払日について連絡を行う。
- ・事務局より、次回の会議開催予定日が平成31年6月頃であることを説明する。

《質疑応答》

委員：団体の代表として本会議の委員に選出されているが、来年には団体と無関係になってしまう。委員の任期は来年以降もあつたと思うが、この場合は引き続き委員を務めた方が良いのか。

事務局：前回の会議で次期子ども・子育て支援事業計画の作成が完了するまで、委員の任期を延長させていただくことを説明した。団体に所属している間は、継続して委員をお願いすることになるが、団体を抜けてしまう場合は、団体から新たに委員を選出してもらうことになる。

委員：次回の会議が来年の6月ということで、次回の会議の時には、ある程度次期計画の内容が具体化しているかと思われるため、次期計画ではこういった内容を取り入れていただきたいというお願いとなる。

現行計画の基本理念は「子どもを産み育てることに夢の持てるまち・桐生」となっていることから、みんなが夢を持って子どもを育ててみたいと思うように、働きかけをしていくことが必要ではないかと思う。子育てしていく際には色々な不安もあるが、子育てはこんな良い面もあると背中を押せる施策ができればと考える。

計画書の9ページに合計特殊出生率が記載されている。平成23年は全国の合計特殊出生率は減少しているが、桐生市は増加している。平成23年の6月に桐生市ではイクメンプロジェクト推進チームが結成されており、こちらは父親の育児を盛り上げていくための取り組みであったが、桐生市の合計特殊出生率増加の一つの要因になったのではないかと考えられる。次期計画にも「父親の子育て参加の促進」ということが入ってくると思うが、よりこの点をアピールしていくことができれば出生率の増加につながられるのではないか。また、他の市町村との差別化が図れるのではないか。平成26年3月には「桐生で子育てを楽しむためのガイドブック」を作成し、現在、キッズバレイという組織の中で「パパのBA」という活動を行っている。こういった活動と市が情報交換して父親の育児参加を盛り上げていける次期計画ができれば良いと思う。

事務局：子ども・子育て支援事業計画では、保育園、幼稚園の施設の整備と地域子ども・子育て支援事業について量の見込みと確保方策を定めるということがメインの部分となる。現行計画書の後段に様々な子育て支援施策が記載されているが、今回のご意見はこちらの後段の部分に盛り込んでいく内容になると思われる。イクメンプロジェクトは、市が立ち上げ、その後に民間で盛り上げてもらいたいという状況があった。現在はキッズバレイで活動されていることも認識している。こういった団体とどう手を繋いでいくか、どう連携をしていくかを考えていく必要性を感じている。

以 上